

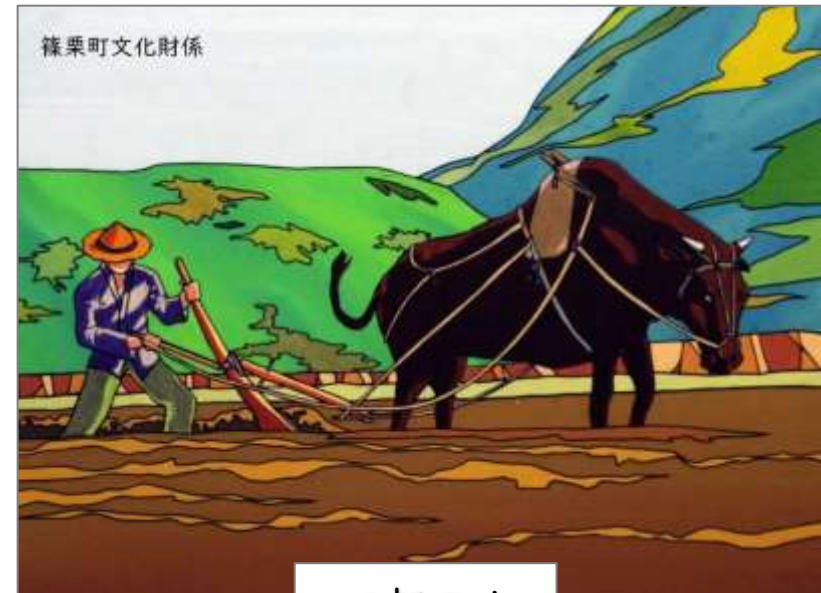
初夏の農作業「田起こし」^{しろか}「代掻き」

田起こしは、稲を植える前の乾いた田で、牛や馬に^{まき}犁をひかせて土を掘り起こし、細かく砕く作業です。

(右上のイラストは牛、右下の写真は馬が犁をひく様子)

代掻きは、田起こしが終わった田に水を張って、馬や牛に^{まぐわ(まが)}鋤をひかせ、土をかき混ぜ表面を平らにする作業です。

代かきが終われば、田植えが始まります。



田起こし



代掻き



初夏の農作業「田植え」

代かきをして平らにした田んぼに稲の苗を植えます。右のイラストのように、田んぼに縄を張って苗を植えていきます。

縄には目印がついており、苗と苗の間隔を一定にすることで、乱雑に植えていた頃より、日当たりや風通しがよくなり、除草作業の効率も上がりました。



昭和5年6月18日 御田植祭 田植舞の様子



新嘗祭はその年の新穀を神様にお供えし収穫を感謝する行事で、宮中と全国の神社で行われます。

左の写真は昭和5年、新嘗祭の献穀田（宮中に納めるお米を育てる田）に選ばれた篠栗町高田での田植舞の様子です。